



狛江市コミュニティ・スクール  
イメージキャラクター  
コミュにゃん

# コミュニティ・スクール通信 NO.16

～ 学校間連携と地域連携～

発行/令和6年1月

発行者/学校教育課

担当/地域学校連携支援マネージャー石谷

狛江市におけるコミュニティ・スクール（CS）は2年目を迎えようとしています。今年度も、狛江市独自の活動や推進の様子を「コミュニティ・スクール通信」と題して、16回にわたり、ここにお知らせしてきました。今号は最終号の前号になります。

## 学校間連携と地域連携

学校運営協議会が取組みを進めていこうとすると、ゾーン内の学校間で主に副校長や担当教諭によって進めていく内容と、地域の協力を仰ぎながら進めていく内容、あるいは双方にかかわる内容など様々なものがあります。

一中ゾーン学校運営協議会では、めざす児童・生徒像に向かって取組みごとの目的、指針が明確であり役割分担もはっきりしています。ここに、一中ゾーンにおいて、学校間連携と地域連携の内容の違いがはっきり分かる事例を比較しながら紹介します。

### 教員が企画する学校間連携



一中ゾーンは、小中学校3校にそれぞれ特別支援学級が設置されていることがゾーンとして大きな特色で、交流会が企画されました。今回はそれぞれの学級で練習を重ねてきた合奏や合唱、和太鼓の発表とその鑑賞を交互に行いました。特別支援教育は、児童・生徒一人ひとりと向き合って個を大切にしながら、人と人とが関わるための社会性を育むといった教育の原点であり、この交流は価値あるものでした。副校長や担当教諭が綿密な打ち合わせをして実現しました。

音楽も、それぞれの学校で鼓笛隊やブラスバンド、吹奏楽部をもつ一中ゾーンにおいて、学校運営協議会が「ゾーンの特色」と定めたものです。3校の特別支援学級の連携は、今後のゾーンとして音楽による学校間連携に発展していくことで、ゾーン全体の教育の質の向上につながるものと思われます。

### 地域コーディネーターがつかさどる地域連携

「地域学校協働活動は、学校の応援団です。」と以前に記述しました。学校運営の一部（授業等）を具体的に支えていく「地域学校協働活動」は、学校運営協議会の構想を具現化させる実働部隊です。その要となっているのが地域コーディネーターです。

狛江第一小学校2年生の町たんけん「駅の近くの大なお寺に行ってお話を聞きたい。」という児童が数名いたため、地域コーディネーターが泉龍寺前住職と連絡を取って実現した様子です。子どもたちは、本堂に上がらせていただき前住職に質問をしながら熱心にお話のメモを取りました。「このお寺はね、座禅を組むお寺だよ。」「座禅?」「やったことない?」「ない。」「やってみる?」「わーい。一生の思い出だ。」座禅初体験をしました。2年生は、この他、近くのお店などに取材に行き、12月1日の研究発表会当日に生き生きと発表していました。

